区報ぶんきょう オリンピック・パラリンピック こども新聞 平成30年9月1日

世界の舞台へ、東京アスリート!!

選手の活躍（かつやく）に期待！

認定式には、たくさんの選手が集まった

6月24日、東京都庁5階大会議場で開催された「東京アスリート認定選手認定式」式典では、都のオリンピック・パラリンピック準備局の潮田勉（うしおだつとむ）氏から激励（げきれい）の言葉があり、選手達は思いを新たに世界での活躍を誓っていました。式典後のインタビューでは、平昌（ぴょんちゃん）パラリンピック滑降（かっこう）銀メダリスト森井大輝（もりいたいき）選手を始め、文京区とかかわりのある選手から、貴重なお話を伺うことができ、一同選手のスポーツへの熱意を感じ取り、様々なことを学ぶことができました。認定された選手の方々の今後の世界大会での活躍が楽しみです。（高1／K・Sサポーター）

オリンピック（競技）では205名、パラリンピック（競技）では100名の選手が無事、認定されました。選手の人々はアスリートとして成長することや、都民をはじめとする人々に夢や希望などをとどけることを胸に決意を表しました。2020年東京オリンピック・パラリンピックでは、ぜひ活やくしてほしいです。（小5／S・S記者）

式場のふんいきはきんちょうしていてすごくしずかでした。私は、今回の選手の中からたくさんのオリンピック・パラリンピックの選手が出てほしいと思っています。（小5／K・A記者）

アスリートへのインタビュー

森井選手にアルペンスキーをやっていて良かったとかんじる時をしゅざいしました。すると「つらいコースで1番よいタイムを出した時など、良い結果を出した時」とおっしゃっていました。つらい事をのりこえ、結果をだせているので、そんけいしました。私もなにかにチャレンジしてみたいと思いました。（小5／K・F記者）

森井選手は、パラリンピックにでられるときまった時は、とてもうれしかったとおっしゃっていました。そしてオリンピック・パラリンピックにむけて選手たちはがんばっているという事がこの認定式でわかりました。（小4／T・U記者）

郡磨璃（こおりまり）さんはボートでオリンピックを目指しています。なぜボートにしたかと聞くと中学の授業でスポーツのことを学んだ時ボートに興味を持ったそうです。それからボートをやるうちにオールをこぐときの快感など楽しいことをたくさん見つけオリンピックを目指したそうです。勝った時以外に楽しかったことは、ボートの練習を終えた時に同じボートのメンバーと話している時だそうです。（小6／C・Y記者）

「郡（こおり）せんしゅがボートをやっていてよかったこと」をきいて、「自分がもし、せんしゅになったら」ということを考えてみました。わたしが郡せんしゅみたいになったら、「ハード」ときくだけでとてもおどろいてしまうけど、友人がいるから、がんばれるかなと、おもいました。そんな、郡せんしゅがオリンピックでかつやくするのを楽しみにしています。（小4／R・T記者）

認定式では中高生や小学生の子もいました。今回の選手の方々は第3期生ですが、今までの認定選手には1才のメダリストなど世界で活躍する選手もいらっしゃるそうです。インタビューさせていただいたボート選手はインタビュー中も自信に満ちあふれた顔をしていて、これから世界で活躍されるのがとても楽しみに感じました。（中3／A・T記者）

中学2年生以下はスポーツテストを受けてしん査に合格した人だけが認定されます。今回東京アスリート認定式に行ってみて、平昌パラリンピックに出場した人もいたので応えんしたいです。（小6／C・Y記者）

ブラインドマラソンの選手にインタビュー

その競技はオリンピックと同じルールで42・195㎞走るそうです。みてほしいポイントは後半体力が落ちる中でどのようにゴールするかだそうです。また、競技をはじめたきっかけは目が見えなくなった後やれる事をさがしていたら出会ったそうです。ぜひ応えんしてください。（小5／Y・K記者）

ゴールまでたどりつけるかなくらいつかれるそうです。でも、ブラインドマラソンの選手は、外にでてでてつだってくれるといっていました。大きく成長して、夢を届けると言っていました。（小5／M・N記者）

ブラインドマラソンの今野由美子（こんのゆみこ）選手

自然の演出（えんしゅつ）～薪能（たきぎのう）～

熊本県肥後の大名庭園（肥後細川庭園）で、文京区に宝生能楽堂（ほうしょうのうがくどう）を構える宝生流第20代目の宗主和英（ほうしょうかずふさ）さんによる薪能「小鍛冶（こかじ）」を鑑賞（かんしょう）しました。この作品は一条天皇のときに稲荷神社への神力を頼りに童子や狐が現れるとても面白いお話です。（小5／Y・K記者）

演目は「小鍛冶」というものをやり、年齢、国をこえてとてもしたしんでもらっていました。カイザースラウテルン市からの留学生にインタビューを聞いてみると、「衣装（いしょう）が素敵（すてき）でとてもすごい表現の仕方。セリフを歌で表しているのがいい。」と言っていました。（小5／R・Y記者）

薪能は室内の能とは違って、周りの景色が変わります。空が赤くなったり、暗くなったり、鳥が鳴（な）いたり、それが自然の演出（えんしゅつ）になり、能を引き立ててくれます。音楽は強弱（きょうじゃく）が激（はげ）しく、とても迫力（はくりょく）がありました。（小5／K・F記者）

私は初めての能だったので少しドキドキしました。能は屋外（おくがい）だと自然に影響（えいきょう）されると言っていましたが、せみの鳴き声や空の明るさが能の背景として活躍しました。私にはひぐらしが能に参加しているようでした。（小6／C・Y記者）

薪能は平安時代中期に奈良の興福寺（こうふくじ）で行われたのが最初だといいます。その能が今なお引き継がれているのは宗家（そうけ）の方々の努力があったからだと思います。宗家の宝生和英（ほうしょうかずふさ）さんが「外で行う能は、自然の力を借りられる部分もある。」とおっしゃっていました。そのため蝉（せみ）の鳴き声や月の光なども目や耳に入ってきて外で行う能はとても神秘的だと感じました。（中1／K・A記者）

宗家の宝生和英（ほうしょうかずふさ）さん

昔から続く能は本来、実用的なものです。現在の能は演劇の要素が強くなっていますが、15の徳（とく）があると言われています。能を通して、名所（めいしょ）・旧跡（きゅうせき）、文学や和歌などに触れることができるからです。また能は面をつけて行われますが、感情を込めて熱く演じるわけではなく、神が面に宿ると考えられているため自分は冷静な気持ちで演じるそうです。悩みを抱えたときには、能を鑑賞することで自分の心を整えることができるともいわれており、単なる娯楽として受け継がれてきたわけではない面もあるようです。（K・Hサポーター）

小鍛冶（こかじ）のお話

「小鍛冶」というお話は、不思議な夢を見た天皇がそのお告げに従って小鍛冶宗近（こかじむねちか）に剣を作れと命令します。宗近（むねちか）は良い相槌（あいづち）がおらず困ったものの、神力によろうと稲荷神社（いなりじんじゃ）にいきました。その後、不思議（ふしぎ）な童子（どうじ）や狐（きつね）となった稲荷明神があらわれ宗近の相槌をつとめあげ見事に剣をつくりました。童子や狐は仮面をかぶっており、意外と怖（こわ）いです。そして狐（きつね）は独特な動きをしていました。（小5／C・K記者）

小鍛冶のワンシーン

「小鍛冶」では、天皇に剣を作るよう命じられ、宗近は相槌（あいづち）がいないので困ります。しかしそこに少年が現れて、剣について語り合います。いったいこの少年は誰（だれ）でしょう。この作品をみると、人は一人では歩めないことがよくわかります。（小5／S・K記者）